

島民と共に自然を知り、島の自然を未来に残したい！  
「島まるごと館」の再整備と固有亜種ダイトウコノハズクの保全活動

ダイトウコノハズク保全研究グループ

沖縄県

---

はじめに

沖縄県の離島、南大東島は海洋島であり、世界でもここだけにしか生息しない固有種が数多く生息している。特別天然記念物に指定されているダイトウオオコウモリ、絶滅危惧種に指定されている固有亜種ダイトウコノハズク、固有種のオオアガリマイマイなどである。その一方で、開発による環境破壊や外来種の侵入が進んでおり、島の自然を保全する活動が必要とされている。

ダイトウコノハズク保全研究グループは 2002 年から南大東島でダイトウコノハズクの保全活動を行ってきた。繁殖場所を提供するために島内に巣箱の設置し、繁殖状況のモニタリング調査を継続的に行っている。しかし、継続的な保全活動を続けて行くためには、地域住民との協力体制を築くことが必要不可欠である。そのために、地域住民を対象にダイトウコノハズクについての教育普及活動を行い、協力して調査を行う必要がある。

2001 年に南大東島には島の自然環境を発信する場として「島まるごと館」が建設された。この施設の古くなった展示を刷新することで、資料館としての価値向上が期待される。本活動では、ダイトウコノハズクの保全のための繁殖調査を島民とともに行った。さらに、「島まるごと館」の展示の刷新を行うとともに、島民に対する教育普及活動を行い島での継続的な保全活動につなげることを目的とした。

## A. ダイトウコノハズクの繁殖調査

### 方法

2023年2月~8月と2024年2月~7月にかけて南大東島に長期滞在を行い、ダイトウコノハズクの繁殖調査を行った。2023年は金杉尚紀・佐々木瑠太・細江隼平・澤田明の計4名、2024年は金杉尚紀・堀内晴・中田知伸・坂井充・澤田明の計5名で調査を行った。

産卵前である2月~3月に巣箱の設置、整備を行った。2023年は191個、2024年は186個の巣箱と自然の洞をモニタリング対象とした。3月から、モニタリング対象の巣箱と洞を3~4日に一度訪問して、カメラで撮影を行った。ダイトウコノハズクのメスは産卵の数日前から巢内に座り込みを行う。そして、基本的には座り込みをしているが、日没後1~2時間程度は巢から離れることが知られている。そのため、巢内への座り込みを発見した日からは、日没後1~2時間以内に巣箱を毎日訪問し産卵状況を記録した。多くのダイトウコノハズクは3月下旬から4月下旬にかけて産卵を行うため、5月中旬までに産卵が見られなかった巣箱と洞はモニタリングを中断した。

産卵は多くの場合は2~5日に1卵ずつ行われるため、同じ卵数が6日間継続して確認されるまで訪問を行った。最初の1卵を産んだと推定される日を産卵日と定義した。産卵日から25日以上過ぎた日に孵化することが知られている。そのため、産卵日から25日後から、再び日没後1~2時間以内に巣箱に訪問し孵化状況を記録した。ヒナが視認される、あるいは、ヒナの声や割れた殻が確認された日を孵化日とした。ダイトウコノハズクは非同時孵化の生態を持つ種であり、同一の巢内から孵化するヒナがばらばらの日に孵化する場合がある。この孵化日はその巢で最初に孵化したヒナの孵化日で推定されている。

孵化日から20日齢の時にヒナの形態計測と個体識別のための標識を行った。ヒナの多くは30日齢程度で巣立つため、25日齢から毎日、日中に巣箱を訪問し巣立ち日と巣立ちヒナ数を明らかにした。



図 1. 巣箱での産卵



図 2. 孵化直後のヒナ



図 3. 20 日齢時での計測と標識

## 結果

2023年では125巣でメスの座り込みが確認され、118巣で産卵が確認された。そのうち、95巣で1卵以上の卵が孵化した。74巣で1羽以上のヒナが巣立ちをし、146羽のヒナが巣立ったことが分かった。

2024年では108巣でメスの座り込みが確認され、107巣で産卵が確認された。そのうち、76巣で1卵以上の卵が孵化した。66巣で1羽以上のヒナが巣立ちをし、141羽のヒナが巣立ったことが分かった。

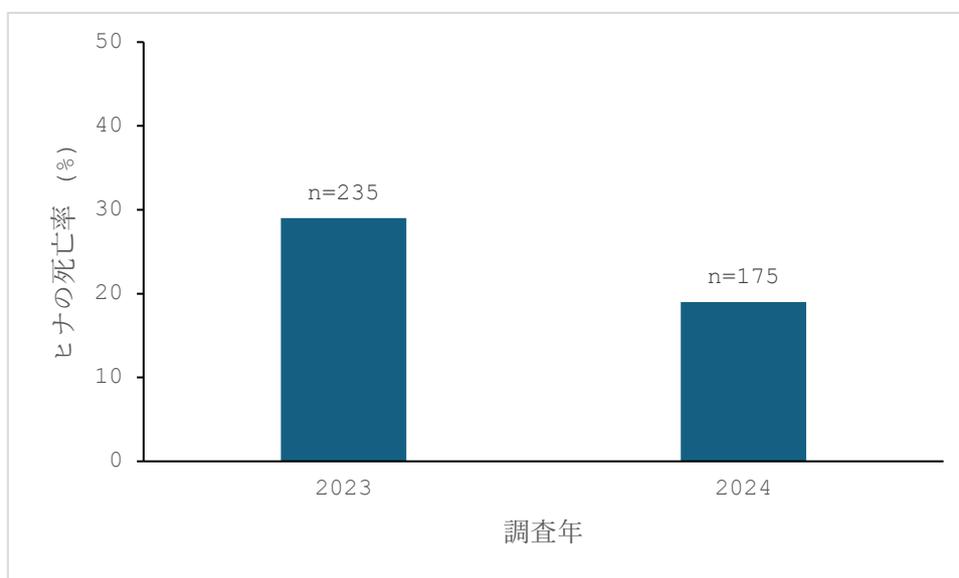


図 4. ダイトウコノハズクの繁殖成功率

## 島民との調査

ダイトウコノハズクへの理解を深める機会を創出するために、島民とともに繁殖調査を行った。2023年7月に1回、2024年3月、5月、6月に4回行った。内容は巣箱の整備活動と外来哺乳類対策、繁殖調査の見学会である。繁殖調査の見学会では、実際に調査を見学してもらいながら少人数を対象にダイトウコノハズクの生態、生息状況の現状を話した。



図 5. 2024 年 3 月巣箱の整備活動



図 6. 2023 年 7 月の繁殖調査見学

## 繁殖状況のリアルタイム展示

「島まるごと館」が南大東村教育委員会の方針により、リニューアルに向けて休館となってしまった。そのため、繁殖状況の展示を南大東村教育支援センターで行った。後述する、巣箱作りイベントで島の子供たちが作成した巣箱についてのダイトウコノハズクの利用状況を中心に展示を行った。また、センターの連絡網を活用して子供たちの家族にも繁殖状況の発信を行った。

### こっぽろの巣箱をかけたよ



巣箱はバーナーであぶって、  
くさりにくくしています



図 7. 4 月 9 日の掲示

注:希少種保護の観点から、本報告書に掲載しているポスターは実際に掲示した  
ものから設置場所情報を削除したもの

# コッポロが卵を産んだ！



お母さんがいないときは、タマゴが見えるよ



皆と作った巣箱にダイトウコノハズクが入って、産卵しました!!!  
皆のおかげです。ありがとう(\*'▽')>

\*産卵・・・サンラン/タマゴをうむこと。

図 8. 4月24日の掲示

# コッポロ新聞

南大東島ではたくさんさんのコノハズクの赤ちゃんが

生まれているよ！

今年（ことし）は101巣で産卵（たまごをうむ）をしたコノハズクがいました！

そのうち75巣がふ化（ふか）して、今は4巣のヒナが巣立（すだ）つていったよ。

ただ、残念ながらみんなで作った巣箱（すくばこ）の卵（たまご）からヒナは生まれませ

んでした。若いコノハズクだったから卵（たまご）を温（あ）めるのが下手（へた）だった

のかも？

※ふ化（ふか）：卵（たまご）から鳥（とり）のヒナ（ひな）が生まれること。

○巣箱（すくばこ）の中（なか）のコノハズクのヒナ

最初は白（しろ）っぽい毛（け）が生（は）えているよ。

巣立（すだ）つ頃（ころ）には茶色（ちやいろ）っぽい大人（おとな）の羽（は）に生

え変わ（か）ります。



図 9.6 月 4 日の掲示

## B. 「島まるごと館」の展示の再整備

「島まるごと館」の展示となるポスターの作成を行った。2023年7月に仮のポスター展示を作成した。加えて、2024年7月にポスター展示を完成させた。南大東村教育委員会で「島まるごと館」の展示の刷新が検討され始めたため、自分たちの研究グループの研究成果を中心としたダイトウコノハズクについてのポスター展示を作成した。



1



2



3



4



5



6

図10. 仮ポスター

# ダイトウコノハズク

(*Otus elegans interpositus*)



南大東島の幕林(防風林)に  
生息するフクロウの仲間

その鳴き声から島民からは  
「こっぽろ」と呼ばれる

## ○研究

この亜種は2002年から「ダイトウコノハズク保全研究グループ」により調査研究がなされている。多くの個体が研究者の手によって足環が装着され、個体識別がなされている。日本国内では有数の長期モニタリング個体群であり、その特徴を活かした様々な研究が行われている。



鳥類学博物館のダイトウコノハズク

## ○分布・形態

リュウキュウコノハズクはフィリピン北部から南西諸島、福岡県沖ノ島に分布する小型のフクロウの仲間である。リュウキュウコノハズク(*Otus elegans*)は4つの亜種に分類されている。ダイトウコノハズクはその一つで南大東島にのみ生息している。北大東島にも過去には生息していたが、1970年代に絶滅したと考えられている。

亜種ダイトウコノハズクは琉球列島に生息する亜種リュウキュウコノハズクと比べて体が小さいことが知られている。



リュウキュウコノハズクの分布図



南大東島にある幕林から撮影されたダイトウコノハズク

## ○食べ物

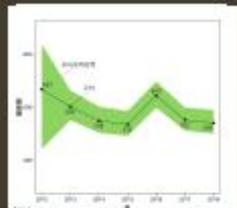
小さな虫(ゴキブリ、クモなど)やヤモリを中心に食べる。稀にメジロを食べることもある。林縁から出て畑や道路の上で採餌を行うこともある。



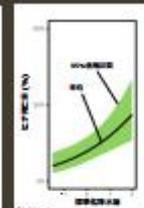
ダイトウコノハズクの採餌内容 (Sample: 2014)

## ○未来

ダイトウコノハズクの個体数は約570個体であり、近年では若干の減少傾向である。また、降水量が多いとヒナの死亡率が上昇することも分かっている。気象変動により繁殖期に豪雨や台風が増加すると個体数に悪影響が与える可能性がある。外来哺乳類による捕食、生息地である森林環境の劣化、交通事故などダイトウコノハズクをとりまく問題は多い。未来の南大東島も、彼らの声が聞ける島であって欲しい。



ダイトウコノハズクの個体数推移 (2002-2014)



ダイトウコノハズクのヒナの生存率 (2002-2014)



南大東島に生息するダイトウコノハズクのヒナ

このポスターはダイトウコノハズク保全研究グループにより、2018年にスズキファウンデーションの助成を受けて作成されました。

図 11. ポスター展示

### C.小学生への授業

2023年7月21日に南大東村学習支援センターで小学生を対象とした授業を行った。19時~19時半にダイトウコノハズクの生態についての授業を行った。その後、大東神社に移動し、20時~21時まで野生のダイトウコノハズクの観察会を行った。

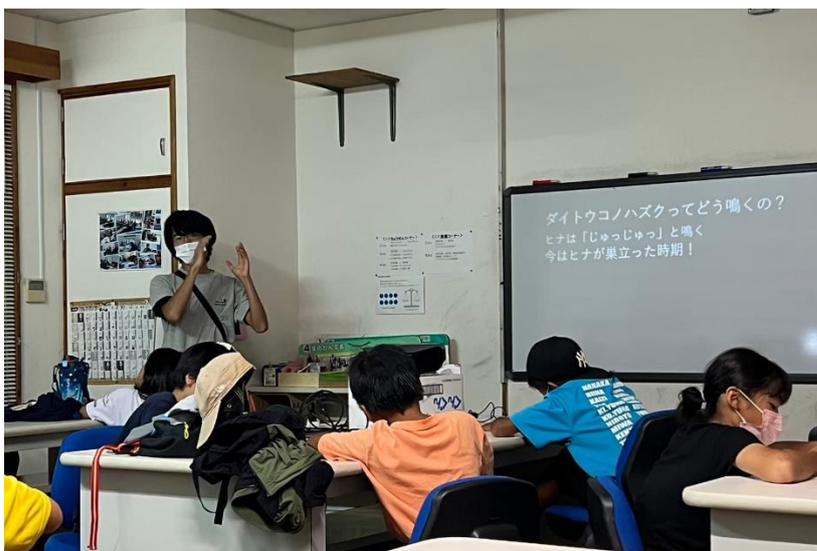


図 12. 2023 年 7 月の授業の様子①



図 13. 2023 年 7 月の授業の様子②

## ○授業後のアンケート結果

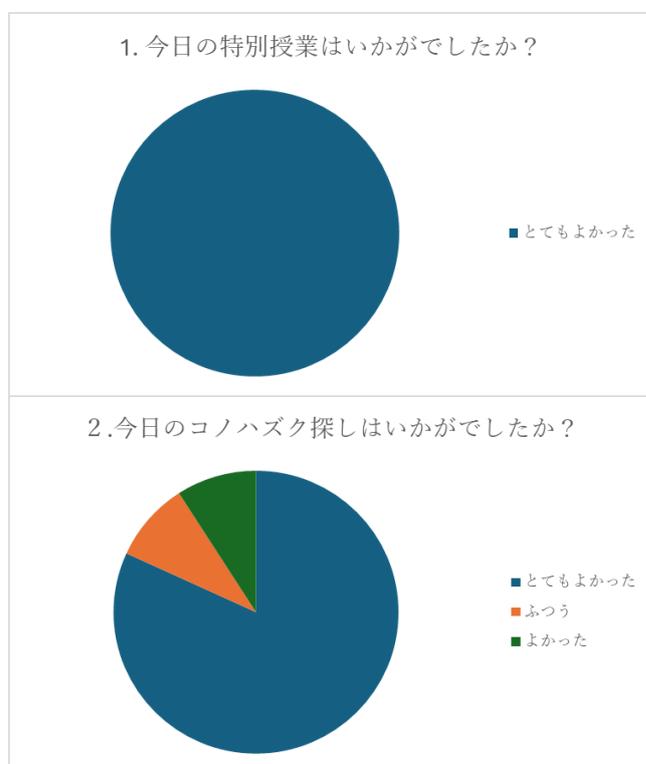


図 14. 授業後アンケート

### 感想(一部抜粋)

- ・このはずくがはじめてで**3**びきもみれてうれしかった。
- ・この目で一度もみたことがないの今日みれてうれしかったです。
- ・コノハズクを初めて見られてうれしかったです。
- ・なんで、コノハズクのメスの方がおおきいのかを知りたい。
- ・いろんなコノハズクがみれて楽しかった。
- ・コノハズクを次にさがしに行くときは静かにするのと大声を出さないようにしたいです
- ・暑かったけど、ダイトウコノハズクをみれてたのしかった。
- ・楽しかったから来年もあるならさんかしたいです。

2024年7月21日に南大東村教育委員会の協力のもとで「島まるごと館」で小学生を対象とした授業を行った。17名の小学生とその保護者が参加した。19時~19時半にダイトウコノハズクの生態についての授業を行った。その後、「島まるごと館」の復元の森に設置した巣箱(後述する巣箱作成イベントで子供たちが作成したもの)の見学を行った。そして、20時~21時まで大東神社で野生のダイトウコノハズクの観察会を行った。



図 15. 2024 年 7 月の授業の様子①



図 16. 2024 年 7 月の授業の様子②

#### D. 巣箱作成イベント

2024年3月27日に南大東村学習支援センターで巣箱作成イベントを行った。14人の小学生が参加した。15時~17時までダイトウコノハズクの生態についての授業を行った。授業の後、巣箱の作り方の説明を行った。子供たちを数名のグループに分けて、4個の巣箱の作成を行った。作成した巣箱は後日、島内の森に設置した。そして、ダイトウコノハズクの利用状況を適宜、掲示した。



図 17. 授業時の様子



図 18. 巣箱作成時の様子



図 19. 完成した巣箱

### E. 島の行事でのパネル展示

2024年7月の小学生への授業の際にパネル展示も行った。パネル展示の際には研究グループで所有しているダイトウコノハズクの剥製も活用した。他の行事でのパネル展示については今後、調整を行って実現させたい。



図 20. パネル展示の様子